

特定非営利活動法人

ユニコムニュース

38

ユニコム理事長 中山 君江

二〇一三年おめでとうございます。

毎日寒い日が続いております、皆さん御元氣ですか。

昨年は思わぬように政局が変わり、少しでも暮らしがよくなりました。この折るしかありません。

今の政治には障害者問題のかけらもなく、世の中はほんの動くところのようです。

高齢者や障害者が住みやすい世の中は子どもや国民にとって住みやすい社会なのではないか…

このニュースも信じられない事件が多かったよね。

これからは明るくニュースを一つ。

障害者情報クラブ「センター」がこの春、地域活動支援センターに移行する予定となりました。

おかげさまで障害者利用者が増えて、ちよひずつ前進

してまいります。

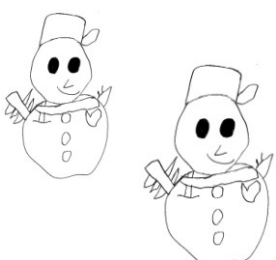
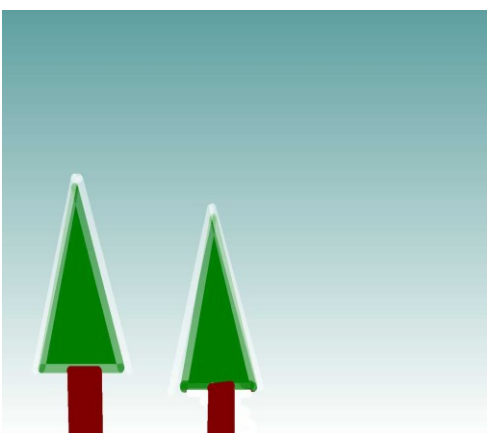
「センター」のモットーは、自分らしく自分ができることを探そうです。

何か一つ自分が好きな事、出来ることを探してもらいます。どんな重い障害があっても何か出来ることがあるはず。あきらめないで、一緒に探しましょう。そして自分を見つけてみましょう。

「センター」の仲間が楽しい仲間です。

本年も、このことは 障害者情報クラブ介護支援センター「ユニコム」と 障害者情報クラブ「センター」とでがんばり行きたいと思っております。

皆様、本年もご協力宜しくお願いいたします。

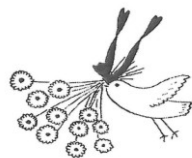


イラスト作

背景 宮本恵子

雪だるま 山本 隼

新年に思いよ



宝塚市身体障害者福祉団体連合会

会長 藤原 隆文

市民である全ての人々が幸せに楽しく安全に安心して暮らせる宝塚市であって欲しい』『と願う一人の市民の独り言と思っ読んで欲しいと思う。昨年こんな出来事があった。

ある福祉団体が、あるところにグループホーム（※注1）を造ろうとした。しかし、地元自治会関係者から猛反対を受けこの計画は頓挫した。

地元の皆さんが反対する理由を間接的に聞いたところ以下のような理由だった。

『障害者の施設が近所に来ると、自分の土地の価格が下がる。』

私は六十年も障害者をやってきたけれど、こんな理由は今までに聞いたことがない。

『得体の知れない障害者が近所をうろつろつろされたら迷惑だ。』

障害者は障害者手帳というものを国から頂戴していて、身元もきちんと届けられている。毎日、新聞を賑わしている悲惨な事件や犯罪のほとんどが健常者によって起こされている事を見ても、本当に得体の知れないのは健常者ではないか。

『障害者が住むグループホームから火事でも出されては大変だ。』障害者だつて焼け死にたくはない。特に視力に障害のある人は健常者の何倍もの注意力を発揮して毎日を生活している。

障害者が地域で普通に生活することについて、地域が受け入れないということは、明らかな差別であり、私たちはハンディを背負っていないながら、こんな非常識な人間と戦わなければならない、また障害に対する理解を求めていかなければならないと思うと腹が立つのを通り過ぎて、人間って本当に情けない生き物だと思う。本当ならそんなことはするまでもない。どこに住むかは誰だって自由なはずだ。地域の人となら変わらない宝塚市民だ。猛反対している人たちは市や県・国に誓約書を出して欲しいと思う。

自分が高齢になったり、人生半ばで障害者になっても、地域の世話にはならないとか、福祉の恩恵は受けないとか、どんな差別を受けても構わないなど、誓約書を提出してお

けばいいのに。彼らが引越するとき、住民から『あなたのような地域住民との信頼関係が結べない人の引越はお断りします』と言われたとき、どうするのか見ものである。もしも彼らが引越しをしなればならない時に、『あなたが引越して行くのはダメだ』と地元から猛反対を受けたとしたら彼らはどう思つか。それと同時にこのような他人を受け入れられない人間が多く存在することを私たちは知っておかなければならない。



当の施設や支援をしている人たちが、涙ながらに自治会関係者の理解を求めるときの説得が続けたが、残念ながら理解は得られなかった。

障害を持つ私達の道のりはまだまだ険しく遠い。エゴ社会の地域の試練を受けた。

(注1) 障害者が親から自立するために、指導員の支援を受けながら障害をもった何人かのグループで親から離れて自立した生活をするためのホーム。

ヨーロッパ旅行記

とてつこ ヘルパー 十川 一郎

いよいよパリ北駅へ。しかし何と云うことか……

「ピーしたチケットは肝心な所の印刷が出来てなく無効に。」

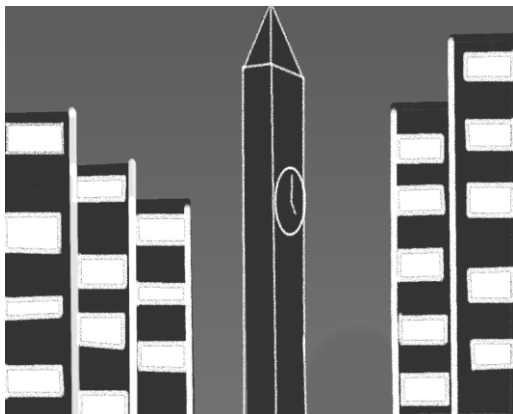
まあ仕方なく、予定より一本あとの昼食付き一等車に変更。

二人顔をあわせてやっぱりロンドン行きには何かあるなあ」と大笑い。

インターネットでユーロスターのチケットを購入。

パリ市内の駅構内ですが、四十年をかけて友達と二人一緒にフランスを出国、イギリスへの税関を通過。

一時間ほどでロンドンに着。ホテルまで地下鉄に乗るため歩いているとポリスが



イラスト作 宮本恵子

二人寄ってきて警察手帳をみせられ「マリファナ持ってるか？」所持品検査をする」とパスポートや財布、バッグを検査されて気づいた時には、マジシャンのように財布からポンド札とユーロ札を抜き取られていた。カードが無事だったので一安心。

見事な早業ですばらしいテクニック。

買い物や食べ物、ほとんどカードが使えるので被害は少額で助かりました。

パリに帰ってイギリスに住んでいる人に、その話をしたがそんな偽警官の話は聞いたことが無いとの事でした。

あれは本物の警官だったのか？警察手帳を見せられても本物がどっか解れへん。

その晩にやっと四十年間の念願が叶い、パブでスコッチビールで乾杯。

帰国日の八日、ドゴール空港へ行くこと頼んでいたタクシーに乗り込む前に、パスポートと航空券を確認。

なんとまあ「搭乗日は七日、帰国が八日。乗るはずの飛行機は昨日飛び去っていた。これまた大笑い。

ドーハ経由のカタール航空で帰国。ドーハの悲劇」にならずに無事帰宅できました。

パラリンピック会場はフェンスで囲まれガードマンがいて遠くからしか見ることも出来ず、見ようと思って観光に来てい

た外国人達もガッカリしていました。

市内でオリンピックパラリンピックの痕跡はまったく見ることはありませんでした。

パリと違ってロンドンには車椅子に優しい町だと感じました。

旅先での一枚の写真



障害者虐待防止法講義の感想

アイエルセンタースタッフ 武村 香奈

虐待とはななんだらう。今回の講義の議題改めて見て、ふと思いつかへた疑問です。

一概に虐待と言っても、精神的、肉体的などあります。暴力に暴言。それらの類はきつて世界共通の認識でしょう。

私自身も虐待とまではいきませんが、ある程度は受けてきました。

障害者として生きて来たならば、誰もが受けるだらう心無い視線や言葉。そんなことを一々気にしていたら外にも出られないのは当然な訳ですが。

正直なところ、人間が集まれば障害など関係なく虐待や差別虐めの類は自然に起るモノである。私は思っています。だから、仕方の無いことなのだと思ひ留めることが一番楽で手取り早い手段でしたので、あまり気にしたことはありませんでした。

そんな中、講義にて経済的虐待が挙げられていて確かに

なあ」と納得してしました事をおぼえています。

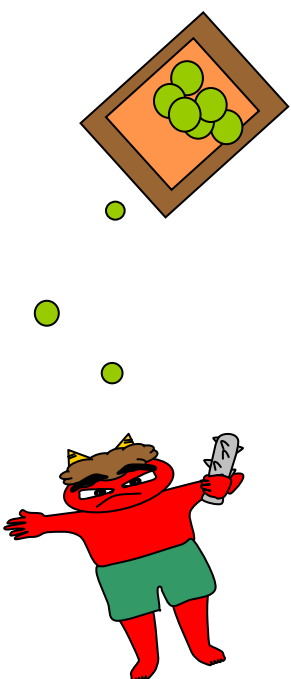
生きていく上で金は何よりも大事なものであり、人間として生きていく為のもの。障害を持ち生活をする私たちにとっても無くはならないです。

ただでさえ少ないそれを本人の意思なく自分勝手に使用している加害者の存在には失望するしかありません。

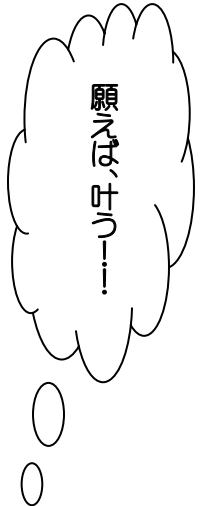
しかし、確かに存在している以上対策が取られるのは当然のじやない。

ただ、『何故禁止』ではなく『防止』なのでしょう？実刑になるわけでもないというのにも疑問を覚えます。

善意に任せても限界があると思います。心無い人間なんていくらでもいるのですから。



イラスト作 きよろりん



谷口 かつら

一年前のこの機関連誌に、市営住宅の申し込みに挑戦しているが、全く自分の条件に合った住宅が出なくて、市長と市民の集会で懇願したところのことを書いた。懇願したあと、すべの回で私はずっと狙っていた住宅が、単身入居も有りて募集が出ていた。やはり、間違っていることを言っていないなら、思いは届くものなのだ。

そして、申し込み 仮当選 当選……バタバタと順調に決まっていた。

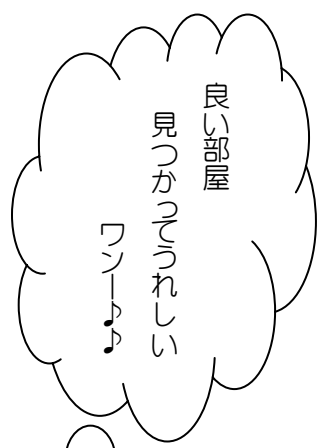
十年前は、一センターに、文化住宅を紹介してもらったり、あの頃はまだ元気だった母親が、必要な物を私の知らず知らずのうちに用意してくれたりもしていたが、今回は妹に連帯保証人になしてもらった以外は、手続き関係などを始め、引越に携わることをヘルパーさんには手となり足となってもらい、相談機関にも相談はするが、段取りは全部自分で考えながら動いていた。

私は障害者でもあり一人での引越は、一般よりも何倍も大変なものだ。バリアフリー住宅とはいえ、自分の住み

やすいようにリフォームすると、ヘルパー体制を立て直すのが、短期間ではなかなか大変だったが、念願の住宅に移ることができ、白い壁の部屋も部屋に自分の色に染まってしまう、家具なども置き変えたり、これからも住み心地の良さを追求していきたい。

ところで、前の住まいより外出は不便になったものの、ある意味、ゆとりのある生活になったからか、憧れのスターマッシュとマッキーの追っかけ度が増している私。自分のやりたいことを優先的に、セリフな気分を過してきたい。

ここに引越した頃から、ますます 願えば、叶うー……を実感している。



みんなからのメール



アイエルセンター チーフ 川原崎 浩史

チーフになり五ヶ月程がたちました。正直な話をさせてもらいますと自分は、肩書きにあまり興味がなく、一体チーフになって何が変わるんだと思っていました。実際、今までひるひる君だったのが急に「チーフ」になり、慣れない肩書きで「チーフ」は恥ずかしいというか落ち着かない日々でした。

そのうちみんな忘れていつものひるひる君に戻るだろうと思っていました。しかし、二ヶ月…三ヶ月…みんなは僕の事を「チーフ」と呼んでくれました。そんな時ふと疑問に思いました。

何故みんなは「チーフ」と呼んでくれているのだろうか？思えばひるひる君にもその肩書きをきえなめかなく何が良いか、そんな理事長の一言から始まり、気がつけばチーフにならざるを得ない。

年齢的にも二十九才、人としてまだまだ未熟な部分がたくさんあり、決してチーフとしての器があるとは思えないまだまだ頼りない自分。そんな自分を人生の先輩達、後輩たちが引き立たせてくれるかのようになり、今でもみんなが「チーフ」と呼んでくれています。

そのままでメールを送ってくれるかのようなみんなからの「チーフ」の一声に支えられ今もアイエルで働かせて貰っています。他の人から見ると些細なことかもしれない。でも、私は嬉しいのです。

未熟な自分にチーフと肩書きを考えてくれた中山理事長を始め、日々「チーフ」と呼んで支えてくれている皆様に感謝の気持ちをこのニュースの原稿よりお伝えしたいです。いつもありがとうございます。

アイエルセンターで気付いた事



アイエルセンター職員 清水 英樹

私は、アイエルセンターに来て、自分が甘えた生活を送っていることに気付かされました。私は、数年前に病気と付き合っていたかなければならない身体となりました。そのことにより、『私はできない、あわはできない』となった。その中で少し甘えた人間になろうかという思いがあります。ところが、アイエルセンターに来て、様々な障害を持った方々と出会い、甘えていた自分に気付かされました。みなさんは、自分でできないことがありますが、そんな中で、逆に自分にできることを探して、そのことを仕事にしています。しかし、私は、自分でできないことがあるので、『これは無理や、自分にはできない』

と諦めるほうが良かったかもしれません。生きていく上で、好
諦めしてはいけないと思います。

生きることを諦めて死ぬか？」と言われたら、そんなこと
はありませぬ。それにも関わらず、苦手な事を放棄していき
ていくのは、ただ逃げているだけだと思います。

パソコンの創業者の松下幸之助さんの言葉で、失敗の
多くは、成功するまでに諦めてしまっている原因がある
ように思われる。最後の最後まで諦めてはいけないのであ
る。この言葉は、誰にとっても非常に重要な言葉だと感じまし
た。

私ではあるけどを考えてみる。パソコンの知識を持ってい
るのだから、それをアイエルセンターの仕事に活用していき
たいと思いました。私は、病気になるから様々な人に迷惑を
かけ助けてもらうこともあったので、誰かの役に立ちたいと
考えるようになった。

アイエルセンターでは、パソコンを使って仕事をしている方
がたくさんいらっしゃいます。その中でもパソコン操作につ
いて質問をされて答えるのですが、その時は私が役に立ってい
るかな？と感じる瞬間であります。しかし、私も今でもパン
クン操作に悩む方があります。しかも、同じ知識と技術
ではいけないので、勉強は続けて仕事に貢献していきたいと
思います。

自己変革



アイエルセンター 職員 藤川 了

私はあるおもしろい本に出会いました。

今の自分を変えたいそう強く思いよく行く本屋に行き、そ
して吸い込まれるように自己啓発の本を手に取りました。そ
の本には、変化は必ずやってくる、その変化がきたら恐れず変
化を受け入れて楽しみまた自分の欲しい物を探しに行こう。

そしてそれを楽しもうとありました。この本を読んで考
えました。今の自分は、何が変わるのを恐れているのだと、
今いる場所が一番安全だ、誰よりもこの場所を知っているの
だからと考えました。自分が変わらない理由に気づいて、何
か行動を起こさないと自分のできていない事に変化を起
こそうと行動しました。するとおもしろいことに、この変化
を楽しんでいました。

不安や恐れを好転させることができました。そしていずれ
また変化が起こる、その変化を見逃さないためにその場所に
変わった事はないかと見渡して、変化の匂いを嗅ぎとり新た
に来る変化に備えようと思います。そしてその変化を大いに
楽しもうと感じました。

この本との出会いで私はより本が好きになりました。

まつ知つてみ アイエルセンター」報告

宝塚市山本南2にある身体障害者の小規模作業所アイエルセンターで十三日、イベント「まつ知つてみアイエルセンターのごと」が開かれた。スタッフらによる寸劇＝写真＝や、コーヒーや肥料などの販売があった。センターはNPO法人「まじまじ」(中山君江理事長)が運営。寸劇は新聞記者役の職員がスタッフにセンターの取り組みを取材するシナリオで、パソコンの操作やチラシを作成していることを紹介。もみぐらや、おがくずに微生物を混ぜて作った土壌改良資材や、牛や豚のふんで作った堆肥も販売した。中山理事長は「障害者が自宅に閉じこもらず、もって社会に出られるようにしたい」とセンターの積極的な活用を呼びかけてる。 高瀬浩平】

九月十四日毎日新聞朝刊より抜粋

日時 平成二十四年九月十三日 木(十三時～十五時)

場所 アイエルセンター 長尾ふれあい広場

この日は、良いお天気でアイエルセンターと長尾ふれあい広場の二カ所に分かれての行事でした。

朝十時よりアイエルセンターでのコーヒー販売とバザーの用意、長尾ふれあい広場での授産品販売、ボウリングゲームそしてたこ焼き販売の用意をスタッフと職員が担当別で行いました。いよいよ十三時、養護学校の生徒さん、親御さん、先生をお迎えしての開会式。まずはセンター長挨拶、そしてス

タッフと職員のロールプレイが始まりました。

この日は毎日新聞の記者の方の取材もあり、出演者は少し緊張していたようでした。翌日の朝刊にはロールプレイの写真と記事が載りました。その後ボウリングを楽しみました。平日ということ

もあり、地域の方々の参加がほとんどなかったのが残念でした。平日に行つか、土日に行つかが今後の課題になりそうです。そして思った以上に暑く、バザー担当者や両方の会場を往復するのは大変でした。その後の反省ではもう少し時期を考へてはと言っ意見がありました。

閉会後の説明会では、生徒さん、親御さんも気に入ってくださり、四月よりアイエルセンターに行きたいといっていたいただきました。(中)



御寄付ありがとうございました

まつ知つてみアイエルセンターは

善意銀行の寄付によって行うことが出来ました。

アイエルセンターのホームページが

新しくなりました！

障害者小規模作業所『アイエルセンター』のホームページが、内容豊富にリニューアルしました。

昨年たくさんの方々と職員を迎えかね、アイエルセンターはエネルギーな場として活気づいています。

アイエルセンターは障害のある人が地域の中で元気に生活していく足がかりとなる場所です。

ホームページではそんなアイエルセンター発足の理念や活動内容、イベントの案内、役に立つ情報などをタイムリーに掲載。

例えば、こんな活動を紹介しています。

- ◇ 麻の糸（ヘンプ）を使ったアクセサリーの作製
- ◇ バリアフリー調査
- ◇ 薰り高いアイエルコーヒーの販売
- ◇ 掘り出し物が一杯！バザー販売
- ◇ アイエルたわしやマフラーの作製
- ◇ ネットオークション
- ◇ 委託販売品土壌改良剤『まじょい』の紹介

そして、まだまだ他にも多種多様な活動の場を模索しています。

あれ、なんだか面白そう…」なかなか外に出るきっかけがない障害者の息子がいるんだけど…」障害があるけど働きたい。でもいきなり社会に出るのは、自信がない。」

色々な思いを持ちながら始めの第一歩をまだ踏み出せていない皆さん、その一歩を踏み出すために、まずアイエルセンターのホームページを開いてみませんか？

アドレスは左記のとおり。ホームページをご覧くださいね。
アイエルスタッフの顔を見に来て下さいね。

元木

<http://il-center.info/>



たくさんの方のバザー用品を頂き
ありがとうございました。

先達が逝く

～長橋栄一 大賀重太郎 大友章三～



ついでに副理事長 坂上 正司

夏から秋にかけて障害者情報クラブにとって大切な三人の先達が逝った。長橋栄一 ながはしえいいち、大賀重太郎 おがじゅうたろう、大友章三 おおともしよしやう三。

僕にとって長橋さんは理念を示したひとであるのに対して、大賀さんは手段を示してくれたひとと言える。大友さんには総合的な相談支援を教えてもらった。

一九八九年に宝塚で車いす市民全国集会の分科会をやったとき、長橋さんは 楽しくなければ運動は長続きしない」と教えてくれた。ファミリーランドで遊んでもらったり、そこから福祉センターまでハイキング気分移動した企画を当時は役人たちに 遊び半分」と揶揄やめとされていたが、そんな市や社協の職員に向けて長橋さんが吐かれたことばだ。楽しくなければ運動は長続きしない」未だに障害者情報クラブの活動のバックボーンになっている。当時は、ある市会議員からの圧力で 集會会場で市や社協の職員に質問はしない」とことになっていたが、助言者として参加されていた長橋さんが、フロアをマイク片手に走り回って、障害者市民の苦情を次々に引き出していった。その姿は痛快ですらあった。この集会后、

実行委員のメンバーで障害者情報クラブが結成された。

一九九五年一月十八日、阪神大震災の翌日、事業の先行きに不安を感じながら悶々としていたとき一枚のファックスが流れてきた。オズの箱 障害者救援情報 No.5」。発信者は大賀重太郎。大賀の名前をはっきり意識した瞬間だった。それまでお互いに漠然と知っていた兵庫県下の障害者作業所のメンバーの消息がそこに載っていた。それまで思い悩んでいたことが吹っ飛んだ。やれることをやるしかない。問題はやりながら解決できる。大賀さんの行動に心を動かされたひとは少なくないはずだ。彼の取り組みが被災地障害者センター、拓人こうべを生み出した。そして、それが今般の東日本大震災においても、当たり前前に被災障害者救援、被災地障害者センターの活動へとつながることを考えてもその働きは大きい。その後、一九九六年、障害者政策研究全国集会でも彼は事務方として尽力された。

大友章三さんとの関わりは、一九九〇年の自立生活問題研究全国集会 大阪のスタッフとしてだった。一九九八年には障害者情報クラブで主催したピアカウンセリング集中講座の講師としてお招きした。それ以来何かと交流が多かった。いつもにこやかな顔の中に秘めた強さを持っていて、すべてを包んでくれるような人だった。個人的にもカウンセラーとしての悩みを聞いてもらっていた。大事な人たちは去っていったが、

彼らが残してくれたことを未来へ引き継いでいくことが残されたものの使命なのかもしれない。安らかに眠ってください。

大友さんを偲ぶ

私は六、七年前のピアカウンセリング講座『注1』の時に初めて大友さんに出会いました。大友さんが講師サークルで私が受講生で出会いました。その後も何度かピアカンの際に講師と生徒の関係でお会いしました。時に厳しく、時に優しく、私たち生徒に接してくれたピアカンの一から教えて頂きました。心も清らかで人間的にもあの人の様になりたいと思える人でした。大友さん安らかにお眠り下さい。そして私たちを見守ってください。

(土井 克哉)

「注1」

何人が同じ障害を持つ人たち（ピア）が集まって、自分たちの体験を一对一で時間を共有して語り合ってリーダーからその事について助言はいただくが自分で答えを見つけて行く講座です。障害者が悩んでいる時に受講生が相談を聞いてあげられるようにカウンセラー自身のパワーアップする為の講座です。

皆さんも一回参加して自らの聞く力のパワーアップを図ってみたいいかがですか？

特定非営利活動法人とことこニュース

所在地 〒665-0882

兵庫県宝塚市山本南2-6-5

NPO法人とことこ障害者情報クラブILセンター

【障害者情報クラブへのご寄付、会費の振込みの方】

TEL&FAX 0797-82-2233

E-MAIL sjcil@hotmail.co.jp

郵便口座 14360-43110611

障害者情報クラブ

銀行口座 三井住友銀行 逆瀬川支店普通3566211

障害者情報クラブ

【アイエルセンターへのご寄付の方は】

池田銀行 山本支店 普通 28004

特定非営利活動法人 とことこ 理事長 中山君江